

4

豊かな心と
活発な交流を育む
多彩な文化のまち



概要

地域に息づく祭事や伝統芸能、舞台芸術等、地域文化の継承・発展は、区民の誇りを高めるとともに、心に潤いをもたらします。

地域の歴史・文化を守り伝えながら、若者を中心とした次々と生まれる新たな文化を受け容れ続けるとともに、区民一人ひとりが文化を身近に感じる豊かな暮らしの実現に向けて、様々な文化の担い手が地域一体となってまちを盛り上げていく多彩な文化活動を展開します。

学びのスタイルの多様化に応じて生涯学習の「場」を整備するとともに、居場所や交流の機能を有し、文化振興、生涯学習、地域コミュニティの拠点となる図書館を実現します。

さらに、スポーツに親しむことができる機会や環境を整えることで、誰もが人や地域とつながる、スポーツを通じたいきいきと健康で豊かな生活を実現します。

豊かな心と活発な交流を
育む多彩な文化のまち

- ① 地域文化・伝統文化の継承と発展
- ② 文化芸術への参加・創造の機会の創出
- ③ 学習活動の支援を通じた生涯学習の推進
- ④ 多様な役割を持つ新たな図書館の実現
- ⑤ 生涯を通じたスポーツ活動の推進

文化芸術
生涯学習
スポーツ



施策（4-①）

地域文化・伝統文化の継承と発展

目指す姿

- 地域の文化資源が適切に保存され、持続的に活用されることで、区民一人ひとりが地域の伝統文化や地域文化に誇りと愛着を持っている。

現状・課題

歴史的価値を損なわない
文化財の保存と活用

- 区民意識調査によると、44.5%の区民が文化資源の保存・活用を「今後重視すべき優先事項」として挙げており、文化財の保存や、その利活用に対する関心を有しています。
- 文化財を適切に保存するだけでなく、その歴史的価値を損なわずに現代に適した形で活用し、広く区民や来街者に伝える手法の工夫が求められています。特に、デジタル技術を活用した保存と活用の仕組みが課題です。

地域文化・伝統文化の継承

- 区内の各地域で長い間受け継がれてきた固有の文化を守り、未来に引き継ぐには、次世代に効果的な方法で伝えることが必要です。
- そのためには、まず、本区特有の地域文化や、伝統文化を子どもや地域住民、来街者に知ってもらい、関連イベントへの参加を通じて多世代との交流を促すことで、文化に触れる機会を創出することが大切です。

取組方針

歴史的文化財の継承と魅力発信

- 本区には、自由学園明日館や雑司が谷鬼子母神堂といった国指定重要文化財、雑司が谷旧宣教師館等の都指定有形文化財、鈴木信太郎記念館をはじめとする区指定有形文化財があります。これらの文化財に加え、長年区内で保管されてきた池袋モンパルナスを代表とする貴重な絵画や地域の民俗資料、豊島区の風景写真等についても、歴史的価値を守りながら、それぞれの特徴に応じた適切な維持管理を行います。
- これらの文化財について、より多くの人々が身近に感じられるよう、デジタル技術を活用したバーチャル展示や体験型イベントの実施、現地でのワークショップや鑑賞機会を増やす取組を推進します。さらに、SNSや各種プログラムを活用して魅力を発信し、関係団体との連携を強化することで、資料や文化財の価値を的確に伝え、地域の文化の継承と活用を推進します。

地域文化・伝統文化の担い手づくり

- 長崎獅子舞や富士元囃子、伝統工芸、池袋モンパルナス等、豊島区に根づく多様な文化を継承し、その魅力を広く発信します。これらの地域文化や伝統文化が次世代に継承されるよう、区民の誇りや愛着を高める取組を、地域住民や学校、企業、NPO等、様々な主体との連携を通じて強化します。
- デジタル技術を効果的に取り入れながら、イベントを通じて質の高い芸術に触れ、ワークショップを定期的に行うことで、区民や来街者が文化に親しむことができる機会を増やします。
- 地域の文化活動を通して、年齢、性別、国籍を問わず幅広い人々が交流し、本区の文化を愛する人を増やすことで、地域の文化の担い手を育てる好循環を生み出します。また、シティブロモーションの観点からも、地域の文化活動やその魅力をPRします。



	指標	現状値	目標値				
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度
成果指標	郷土資料館・雑司が谷旧宣教師館・鈴木信太郎記念館・トキワ荘通り昭和レトロ館の来館者数【人】	97,099 (2023年度)	108,000	114,000	120,000	127,000	134,000
成果指標	「歴史的財産である文化財や文化資源が大切に保存・活用されている」について肯定的な回答をする区民の割合【%】	45.5	46.4	47.2	48.1	49.1	50.0



施策（4-②）

文化芸術への参加・創造の機会の創出

目指す姿

- 区民の誰もが良質で多彩な文化芸術に触れ、様々な形で文化活動に参加し、心豊かに文化的な生活を送ることができる。

現状・課題

文化の力による
地域コミュニティの活性化

- これまで、文化によるまちづくりを区の基本政策に据え、「国際アート・カルチャー都市」として、区内外に情報発信し、まちの価値を高めるとともに、様々な文化活動を展開してきました。
- 一方で、コロナ禍を経て、孤独・孤立の問題が顕在化し、区民一人ひとりが心の豊かさを実感できる生活が求められています。
- 文化芸術は人々の心を癒し、生活を豊かにする役割を果たし、その重要性が改めて認識されています。
- 区民や地域の文化団体、学校、企業に加え、福祉団体等との連携のもと、区民生活のあらゆる場面に文化の裾野を広げることで、人々のつながりや交流を促進し、地域コミュニティを活性化させていく必要があります。
- 世代や国籍、障害の有無を問わず、様々な背景を持つ人々が、文化を通して、孤立感なく心豊かに暮らせる社会を構築することが求められています。

取組方針

文化鑑賞機会や文化活動の裾野の拡大

- 「としま文化の日*」を中心に、地域の文化施設や公園を最大限に活用し、より多くの区民が文化に触れる機会を創出します。区は活動の場を提供し、民間事業者には魅力的な事業やイベントの提案・応援を促進することで、互いの強みを生かした公民連携を推進し、地域全体で文化の裾野を広げます。
- 障害者や子ども、外国人等、多様な背景を持つすべての人々が楽しめるよう、としま未来文化財団や福祉団体、学校等と連携し、演劇、音楽、アート等を鑑賞する機会を増やすとともに、参加・体験の機会を提供します。
- VR*やオンライン配信等、最新技術を活用することで、障害者等をはじめ、来場が困難な人に対する文化鑑賞の環境を構築します。
- 区民が文化をより身近に感じられるよう、時代に合った新しいジャンルの文化事業を積極的に取り入れます。特に若い世代の自由な発想力や想像力を生かした事業を支援し、文化の担い手が育ち、新たな文化を創造し続ける取組を進めます。
- 歌、ダンス、読み聞かせ等、幼児期から良質な文化芸術に触れる機会を提供し、子どもが未来を切り拓く創造力を養えるよう、事業を展開します。
- これまで築いてきた、「区民が区民の文化活動を応援し、支える」精神を大切に、区民一人ひとりが主体的に文化活動に関わり、支え合う環境を育むことで、文化を通じた活発な交流や連携を促進し、地域全体のつながりを高めます。



指標	現状値	目標値				
	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度
成果指標 「文化芸術に触れる機会が多くなった」について肯定的な回答をする区民の割合【%】	38.0	40.1	42.4	44.8	47.3	50.0
成果指標 区立劇場、ホールの年間来場者数【万人】	40.9 (2023年度)	44.0	45.7	47.4	49.1	50.9



施策（4-③）

学習活動の支援を通じた生涯学習の推進

目指す姿

- いつでもどこでも自分に合った方法で学べる環境が整い、多様な学びの機会が広がっている。
- 学びの成果を地域活動に生かし、学びと活動の循環（わ）が生まれることで、地域コミュニティが活性化し、新しいアイデアと活力に満ちた変化が実現している。

現状・課題

学びのスタイルの多様化

- アフターコロナにおける社会の変化や、ライフスタイルの多様化に伴い、時代のニーズに応じた学習機会を提供することが求められています。
- 区民の誰もが、いつでもどこでも、学びに参加できるよう、学ぶ側の多様性に合わせた学びの場を整備する必要があります。

学びと活動が循環する仕組みづくり

- 学びを生かす場が限定的であり、学びの知識を個人にとどめている方が多い傾向にあるため、学びの成果を地域の活動に生かせる環境や土壌を整える必要があります。
- また、生涯学習をより一層身近なものとするため、学習情報の発信を強化していく必要があります。

取組方針

生涯学習の「場」の整備

- 生涯学習施設を、障害の有無、年齢等に関わらず、誰もが利用しやすい学びの場として整備します。また、学校に通えない子どもや居場所を必要としている若者が「サードプレイス」として自由に学習や交流ができる場として提供します。
- デジタル技術やリモート学習ツールを導入し、オンラインで学べる環境を整え、日本語を母語としない人、在宅子育て中の人、平日の日中に仕事をしている人等、ライフスタイルに関わらず、誰もが学ぶことのできる機会を提供します。
- 子どもが学校以外で学びの体験に触れられる機会を創出することで、学びを通して仲間づくりができ、新たな発見や学ぶ楽しさに気づくなど、子どもの豊かな成長と学びを支援します。

ネットワーク構築と学習成果の発信

- 地域の学びを支援する人材や、学びに係る大学・団体・企業等、あらゆる主体による学びのコミュニティをつなげることで、学びのネットワークを構築します。人と人がつながり、情報を共有し、他者と議論や対話をする相互学習を通じて、つながり意識が醸成されることで、学びのコミュニティの活性化を目指します。
- 学んだ成果を発信・発表する場を増やすことで、自分の学びを別の観点から振り返り、次の学びや活動へつなげる機会を生み出します。
- リスキリング*・リカレント*を含めた生涯学習を、区民に広く周知するため、SNSを活用するなど、工夫を凝らした広報活動を行うとともに、区民の目に止まるような魅力的な学習事業を企画・発信します。

**施策の
効果を表す
代表的な指標**

指標		現状値	目標値				
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度
成果指標	「地域文化創造館で実施している事業に参加したことがある」と回答した人の割合【%】	40.5 (2023年度)	41.5	42.0	42.5	43.0	43.5
活動指標	学習成果の発表機会数【回】	386 (2023年度)	435	460	485	510	535



施策（4-④）

多様な役割を持つ新たな図書館の実現

目指す姿

- 図書館が、本の貸出・閲覧の場としてだけでなく、居場所や交流の場を含め、誰もがそれぞれのスタイルで快適に利用できる文化振興、生涯学習及び地域コミュニティの拠点となっている。
- 図書館を通じて、子どもの読書活動や区民の学習活動がより活発となっている。

現状・課題

情報収集、読書・学習スタイルの多様化

- SNS、電子メディア、配信サービス、オンライン販売等の普及により、区民の情報収集、読書・学習のスタイルが多様化しています。
- 区民の知的欲求が高まる一方、子ども、若者の読書離れ、活字離れが懸念されています。
- 多様化する区民ニーズに的確に対応するためには、関係機関等とのさらなる連携による読書活動の推進、DX推進によるサービスの充実・効率化等を進める必要があります。

図書館の新たな役割

- 近年図書館は、生涯学習施設としてだけでなく、地域の活性化やまちづくりに欠かせない存在として注目されています。
- また、居場所や交流の場等、図書館の新たな役割への期待が高まっています。
- 新たな図書館への変革には、利用者視点による空間づくりが重要であるため、改築・改修の機会を捉えて、効果的な施設整備を行う必要があります。

取組方針

地域の情報センター、読書活動・学習活動のハブとして図書館の整備

- 地域の文化・観光資源を生かした特色ある図書館づくり、蔵書の充実、他の図書館との連携強化、多様な講座・展示等を通じて、区民の暮らしを豊かにし、地域の課題解決につながる情報発信を進めます。
- 「知の拠点」として、地域文化の保存・継承を促進するほか、共催事業や相互PR等、地域文化創造館と緊密に連携し、それぞれの興味や関心、学習スタイルにきめ細かく対応することで、生涯にわたる区民の多様な学びを支援します。
- 電子図書館の充実、手続きのオンライン化、サービスのセルフ化等、地域の情報センターにふさわしいDX推進を図ります。
- 保育園、子どもスキップ、区民ひろば、小・中学校及び学校図書館、大学その他企業、団体、ボランティア等、幅広い主体と連携・協働し、年齢、障害の有無等を問わず、様々な機会、場所、方法で読書を楽しめる環境を確立します。

居場所、交流、創造の場としての図書館の整備

- 施設の改築・改修にあわせて、家庭、学校、職場とは異なる、ほっとできる「居場所」としての空間づくりを進めます。
- 「子どもと一緒にでも周囲に気兼ねなく利用したい」、「読書や学習に専念したい」、「カフェコーナーが欲しい」等、多様な利用者のニーズに応じた居心地のよい図書館環境を整備します。整備にあたっては、子どもがわくわくしながら本と出会えるよう、子ども視点の創意工夫を図ります。
- 図書館や本を通じて、多くの人がつながり、交流できるよう、ホールやグループ活動室等のハード面の整備、イベント等のソフト面の充実を図ります。
- 図書館が国籍や母語を超えた発見や交流の場となるよう、多文化サービスを拡充します。
- 知識を得る場としてだけでなく、体験型講座、ワークショップ、グループ支援等を通じ、地域の発展とその担い手育成につながる「創造の場」としての図書館づくりを進めます。


 施策の
 効果を表す
 代表的な指標

指標	現状値	目標値				
	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度
成果指標 図書貸出数【冊】	2,057,234 (2023年度)	1,970,000	1,900,000	2,020,000	2,260,000	2,300,000
成果指標 図書館来館者数【人】	1,512,313 (2023年度)	1,530,000	1,530,000	1,650,000	1,920,000	2,000,000



施策（4-⑤）

生涯を通じたスポーツ活動の推進

目指す姿

- 区民の誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツを楽しむことができる環境の整備、充実を図り、スポーツを通じて人と地域がいきいきと輝いている。

現状・課題

スポーツが身近にある社会づくり

- 区民のスポーツ実施率は近年上昇傾向にありますが、年代やライフステージによる実施率の差が生じているため、生涯を通じて、誰もがスポーツに親しむことができる機会の充実が求められています。
- 競技性のスポーツだけでなく、日常生活における運動も含め、誰もが多様な形でスポーツに親しむことができる環境を整備していく必要があります。

コロナ禍の影響による子どもの体力低下

- コロナ禍の影響による外出やスポーツ実施機会の減少により、特に子どもの体力低下の傾向が見られます。また、子どもだけでなく、年齢、性別、障害の有無等に関わらず、区民がスポーツに親しめる機会が求められています。
- 子どもがスポーツを通じて夢を抱いたり、高齢者や障害者もいきいきと生活できる機会の充実が必要です。

取組方針

誰もがスポーツに親しめる環境整備

- 区民の誰もが気軽にスポーツに親しむことができるよう、スポーツ関連団体、民間事業者との連携を深めながら、大会、体験イベント等の事業を幅広く展開することで、スポーツに参加する機会の拡充を図り、生涯を通じたスポーツ活動を促進します。
- 子どもの体育施設使用料の免除や、居場所・遊び場づくりのための一般開放等、区立スポーツ施設の充実や利用促進を図るとともに、学校施設や公園等の区立施設をスポーツの場として有効に活用します。
- アーバンスポーツ*の普及、学校部活動の地域連携・地域移行等、多様化するスポーツの姿や実施形式を的確に捉えつつ、多くの主体がつながる場所等として、様々な形でのスポーツを楽しめる場を提供します。

子どもから高齢者、障害者がスポーツに親しむことができる機会の充実

- トップアスリートとの交流の機会を創出するなど、次世代を担う子どもがスポーツを通じて夢を抱き、豊かな未来を築くきっかけとなる機会を充実させます。
- 子どもから大人まで幅広い世代に対して、スポーツイベント等の情報を発信し、普段の生活の中で、多様な形でスポーツに親しむことができることを普及啓発します。
- パラスポーツの普及やインクルーシブスポーツ*の体験機会の充実により、障害者であっても、スポーツを通じていきいきと生活できる環境を整え、スポーツによる地域交流の促進と、人と人が結びつく持続可能な社会の実現を目指します。
- 誰もが健康で活力に満ちた生活を営むため、子どものマルチスポーツ体験等を促進し、運動習慣の定着を図ります。また、フレイル*対策において最新技術を用いたスポーツを活用するなど、健康づくりや人と社会のつながりを促進します。


 施策の
 効果を表す
 代表的な指標

指標	現状値	目標値				
	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度
成果指標 「地域でスポーツに親しむ環境や機会がある」について肯定的な回答をする区民の割合【%】	24.4	25.0	26.0	27.0	28.0	29.0
成果指標 「生涯スポーツ推進事業」への参加者数【人】	3,568 (2023年度)	4,250	4,500	4,750	5,000	5,250

